

招 集 期 日	平成 2 7 年 1 1 月 1 2 日 (木)		開会の場所	学校給食センター
開会の時刻 及び宣告者	開会の時刻	午前 1 0 時 0 0 分	開 会 者	委 員 長
	閉会の時刻	午前 1 1 時 3 0 分	閉 会 者	委 員 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
岩 本 一 盛	出 席	柿 沼 拓 弥	出 席	
古 市 明	出 席	小 島 敏 之	出 席	
春 山 教 子	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説 明 の た め の 出 席 者	山畑学校教育部長	斉藤生涯学習部長	岡戸教育総務課長	栗原学校教育課長
	米川学校給食センター所長	赤坂スポーツ振興課長	加藤図書館長兼郷土資料館長	
書 記 名	教育総務課総務係 横山			
会議事件名	て ん 末			
開 会		11 月 定 例 教 育 委 員 会 を 開 会		
日 程 第 1 前 回 会 議 録 の 承 認	岩本委員長	<p>教育委員会の会議は、羽生市教育委員会会議規則第 3 条第 2 項により原則公開である。人事に関する事件、その他の事件について出席委員の 3 分の 2 以上の多数で議決した時は、公開しないことができる。今回の日程で議案 49 号及び 50 号は議会の議決を経るべき議案となっているため、これらを非公開としてよろしいか。</p> <p>異議なしの声あり。</p>		
	岩本委員長	<p>議案 49 号及び 50 号は非公開とする。</p>		
	岩本委員長	<p>10 月の定例教育委員会の会議録の承認について諮った。</p> <p>異議なしの声あり。</p>		
	岩本委員長	<p>10 月の定例教育委員会の会議録は、承認された旨宣した。</p>		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第2 報告事項1 第32回「彩の国21世紀郷土かるた」羽生大会の開催について</p> <p>報告事項2 平成28年羽生市成人式の開催について</p> <p>報告事項3 埼玉県PTA研究大会及び羽生市PTA連合会家庭教育研修会の開催について</p> <p>報告事項4 放課後子ども総合プランに基づく行動計画の目標設定について</p>	<p>岩本委員長</p> <p>生涯学習部長</p> <p>生涯学習部長</p> <p>生涯学習部長</p> <p>生涯学習部長</p> <p>生涯学習部長</p>	<p>報告事項1から8について、生涯学習部長より説明を求めた。</p> <p>羽生市こども会育成会連絡協議議会及び羽生市教育委員会主催で、12月5日の午前10時より市民プラザ大会議室にて開催する。団体競技及び個人競技の部それぞれ上位になると、来年3月に坂戸市で開催される県大会に出場できる。</p> <p>平成28年1月10日に産業文化ホールの大ホールで開催する。対象者は平成7年4月2日から平成8年4月1日までに出生した方で、650名が対象である。9時30分より受付を開始し、10時30分に式典を開始する。運営は募集した実行委員により行う。平成26年より式典の後に中学校単位で集合写真を撮り、スムーズに会場を退出できるようになった。実行委員についても、自ら店をあたって記念品を探す等、やる気が感じられる。</p> <p>埼玉県PTA研究大会は県内各市で会場を持ち回りしており、今年度は羽生市が会場となっている。これに羽生市のPTA連合会の研修会を合わせて平成28年1月30日に産業文化ホールで開催する。会場市として村君小学校児童の合唱を披露する。そのあと上尾東小学校PTAと羽生東中学校のPTAの活動報告を行い、最後に記念講演を予定している。</p> <p>これまで厚生労働省で所管する放課後児童クラブ、いわゆる学童保育と、文部科学省が所管する放課後子ども教室の二本立てで放課後の児童の居場所づくりを推進してきたところある。すべての児童が安全安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、2省が連携し「放課後子ども総合プラン」が平成26年7月31日に策定されたことを受け、平成27年3月に「羽生市子ども・子育て支援事業計画」を策定した。しかしながら国が求める行動計画策定指針では、平成31年までの数値目標及び具体的な政策について盛り込む必要があるため、設定した目標を「羽生市子ども・子育て支援事業計画別冊」として策定する予定である。今</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項5 第58回県北美術展の開催について</p>	生涯学習部長	<p>後のスケジュールは、来月の定例教育員会で素案を協議していただき、平成28年1月に羽生市子ども・子育て支援会議で協議し、そこでの意見を踏まえ再度2月定例教育員会で協議、今年度末に策定するよう進めている。</p> <p>埼玉県北部の美術の振興を趣旨として毎年開催されており、今年は羽生市が会場となる。主催は県北美術家協会、羽生市、羽生市教育員会で、平成28年2月4日から2月7日まで、市民プラザで開催する。今年は各部門ごとに講評会を開催する予定である。</p>
<p>報告事項6 第18回羽生市吹奏楽フェスティバルの結果について</p>	生涯学習部長	<p>10月4日に産業文化ホールの大ホールで開催した。13団体が出場し、作曲家の立原勇氏に学校ごとの講評をいただいた。また、過日実施したマスタークリニックについても、生徒の技術とモチベーションの向上に繋がると考える。今後は来場者の意見を集約し、事業をさらに充実したものとした。</p>
<p>報告事項7 永明寺古墳県指定記念講演会及び県指定記念特別展の開催について</p>	生涯学習部長	<p>永明寺古墳が平成27年3月31日に県指定文化財となったことを記念し、講演会を平成28年1月17日に産業文化ホールの小ホールで開催する。講師は元群馬県教育委員会職員で元群馬大学教授でもあった梅沢重昭氏である。</p> <p>また、「永明寺古墳とその時代、一武蔵国村君の大古墳」というタイトルで平成28年1月30日から3月6日まで郷土資料館において特別展を開催する。</p>
<p>報告事項8 平成27年度羽生市人権教育研修会の結果について</p>	生涯学習部長	<p>10月17日に北埼玉地区人権フェスティバルと同時開催した。講師には車いすテニスプレイヤーの上地結衣氏を招き、インタビュー形式でトークショーを行った。アンケート調査の結果では、70.6%が「大変よかった」と回答しており、好評であった。</p>

会議事件名	て ん 末	
報告事項9 第29回羽生市民体育祭の結果について	岩本委員長 スポーツ振興課長	報告事項9から11についてスポーツ振興課長より説明を求めた。 10月18日に中央公園にて開催した。昨年に引き続き三田ヶ谷地区が優勝し、井泉地区が第3位に飛躍する結果となった。小学生対抗リレーでトラブルがあって再レースを行うこととなったが、今後は再発防止に努めたい。次回は第30回記念大会となるため、過去の経験を踏まえより良い体育祭にしたい。
報告事項10 第11回羽生市フロアカーリング大会の開催について	スポーツ振興課長	平成28年1月24日に羽生市体育館にて開催する。フロアカーリングの大会は年2回開催しており、6月は日本フロアカーリング協会公認のもとで全国大会として開催したが、今回は市内のチームを対象とした大会である。昨年度は108チーム、410名の参加があった。
報告事項11 平成27年度トップアスリート育成事業羽生市体操教室の開催について	スポーツ振興課長	当事業では6月と7月に元プロ野球選手を指導者として少年野球教室を開催した。もう1種目として平成28年2月13日に羽生市体育館においてソウル・バルセロナオリンピックメダリストの池谷幸雄氏と、全国体操競技選手権大会で団体総合優勝した順天堂大学体操競技部を招き体操教室を開催する。
報告事項12 「親子で楽しむ絵本とわらべうた講座」の結果について	岩本委員長 図書館長兼郷土資料館長	報告事項12について図書館長兼郷土資料館長より説明を求めた。 昨年度から開始した講座であるが、今年度は10月5日と10月19日に開催した。講師は吉田優子氏に依頼した。受講者は46名と昨年より若干減ったが親子での参加数が増えている。この講座を基にして図書館で行っている「小さなおはなし会」等に活用したい。

会議事件名	て ん 末	
報告事項13 その他	岩本委員長	その他の報告事項を求めた。
	図書館長兼郷土資料館長	9月定例会議でも報告した「ふるさと講座、郷土の偉人に学ぶ」のリーフレットが完成したので、ご案内させて頂く。12月6日の1時30分からワークヒルズの大会議室にて開催する。定員80名である。
	スポーツ振興課長	羽生市スポーツ推進委員だよりを、スポーツ推進委員会の広報部会を中心に作成したので、配布する。
	岩本委員長	報告事項に関して質問・意見を求めた。
	春山委員	放課後子ども総合プランに基づく行動計画について、子ども達の放課後時間が安全安心に計画だてられる事は大変良いことだと思う。具体的な方策や目標の設定ということであるが、放課後児童クラブと放課後子ども教室さらに各学校や各地域での取組が、さらに連携を深めながら具体化されれば良いと思う。
	岩本委員長	子ども・子育て支援事業計画別冊策定について、どのような形で協議されて計画が作られ、教育委員会での協議題となるのか、その意思決定のプロセスはどのようなものか。
生涯学習部長	文部科学省と厚生労働省で、長きに渡りそれぞれ子ども達の安心安全を考えてきた。国では両事業の一体型という表記をしているが、これはできれば学校の中に学童保育室と放課後子ども教室があったほうが子どもの移動が少なくて済むということを示している。平成31年度までには受け入れを30万人増やしたいとしている。羽生市においても学童保育室と放課後子ども教室を別々に行っており、民間の保育園を利用している学童保育もあるため、密に連携したプランニングが必要である。国からの補助金の交付もあるため、市の取り組みとしても平成31年までに目標値を定めな	

会議事件名	て ん 末	
	教育長	<p>くてはいけない。行動計画の素案作成の協議は、生涯学習課及び子育て支援課と関係する各部所の担当間で進めたいと考えている。素案には羽生市子ども・子育て支援会議においての外部委員からの意見を踏まえて最終的に教育委員会で協議いただき、決定できるよう進めていきたい。</p> <p>放課後子ども教室と放課後学童クラブはそれぞれスタートした趣旨がまるきり違う。対立関係でできたものを一つにしようとしているが、それぞれの事業を合体して新たな事業とするなら分かるが、今のままを維持しながら指導方針も違い補助金も別々、そういう流れの中でこれをどう一体化し連携するのか。羽生市は学童保育室での預かりを小学3年生までとしており、これが6年生までとなる。保護者が迎えに来るまで預かるが、専門家でなく臨時の職員がやっている状況でもし事故が起こったらどうするのか等明確な指針がない。放課後子ども教室は後から作られたものだが、毎日活動しているわけではない。非常に矛盾した組織を連携させようとしているため、これからかなり課題が出てくると想像できる。</p>
	生涯学習部長	<p>放課後子ども教室の運営は地域の方の協力により行っている。開催回数を増やしたい気持ちはあるが、指導者不足が課題となっており週1日開催という状況である。</p>
	岩本委員長	<p>放課後学童クラブについては制度的に未熟な部分もあるような気がする。そうすると運営者の力量にかかってくる状況だと思う。運営次第で学童クラブの環境も違ってくるが、財政的にも厳しいなかで行われているのが事実である。しかし、子ども達にとって何が良いかという事を第一に考えるべきであり、大きなハードルもあるが、子ども達の為にベストを尽くしていく事が大切である。私たちも責任を持って今後教育委員会の会議で決定していかなければならない。</p>
	教育長	<p>うまく計画を立てていけるか。</p>

会議事件名	て ん 末	
	生涯学習部長	平成 31 年までの 5 年間で現実にできる、目指すものを作らなければならない。数値での目標をと言われていたが、なかなか難しい。
	教育長	行政も、場所とお金と人がないと何もできない。財源がないため、人材確保をボランティアに期待している。ボランティアだけで子ども達の安全は確保できないわけだから、最悪の事態も常に想定しながら計画を立てて行かなければならない。
	生涯学習部長	現在放課後学童クラブは 5 ヶ所で行っているが、増やす方向でいきたい。地域の方が指導者という形から進めるため本当に難しいが、できる場所があるかどうかも含め数値目標を考えていきたい。
	岩本委員長	民間の活力の利用も大事であり、簡単ではないかもしれないが、民間と共同の事業の実施や建物を建てるのにも民間のスキルを導入したり、官民が連携してコストをかけずに公共的なことも実現していくことも必要だと思う。
	教育長	このような制度は N P O が運営し、それを育てることを行政が担うのが適当と思う。N P O が放課後学童クラブと放課後子ども教室を一緒にして運営するが、場所等については行政と十分相談して決めていく。行政がそれぞれの団体を育てていく立場となれば、子育て支援課だとか、教育委員会だとか、担当部署がどこであるかに影響がない。
	岩本委員長	そのことについては、これから積極的に考えていく時代であり、民間にもそれができる人達は沢山いる。将来的には良いと思う。
	生涯学習部長	そこには国の出した学校の敷地内で活動という大きなハードルがある。学校敷地で N P O による運営は難しいという課題である。
	柿沼委員	私が P T A 会長をしていた時、放課後子ども教室の立ち上げを見たが、内容は良いのだが、ある保護者から体育館で行う活動で、小さい子どもと大きな子どもが一緒になって走り回って危険な場

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第3 議事 議案第49号 議会の議決を経るべき議案について（平成27年度教育費補正予算（第5号）について）</p>	生涯学習部長	<p>面があったが、指導者から何も注意がなく、参加させることに不安があるとの意見があった。教室内の安心安全にもっと配慮が必要ではないかと思う。</p>
	教育長	<p>指導員が地域ボランティアであることも影響している。</p>
	古市委員	<p>指導員の研修制度も必要である。</p>
	教育長	<p>夏休み中のサマースクール等の行事に学童クラブとして参加することは考えられるか。</p>
	岩本委員長	<p>学校行事として行われているものに学童保育室の子ども達が参加するのは難しい。家庭で保育できない子ども達の預かりについて、責任の所在が校長ということになってしまう。</p>
	岩本委員長	<p>民間で行っている学童クラブでは、サマースクールや遠足等の学校行事に重ならないよう年間カリキュラムを調整している。</p>
	岩本委員長	<p>報告事項について、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	教育総務課長	<p>会議冒頭で承認を得たとおり議案第49号及び第50号の審議を非公開とする。</p> <p>議案第49号について、教育総務課長に説明を求めた。</p> <p>就学援助費は、経済的理由によって就学の機会を失う事のないよう市で補助金を給与する制度である。三期に分けて支給する補助金のうち第一期の支給が終わり、年度内支給総額を再積算したところ、中学校費の要保護及び準要保護生徒学用品費給与費について当初予算13,309千円に対し725千円、準要保護生徒学校給食食費給与費について当初予算12,290千円に対し299千円が不足す</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>る見込みであるため、補正予算を増額要求するものである。理由は人数の見込みに対して実数が増えたためである。</p>
	岩本委員長	議案第 49 号について質問・意見を求めた。
	教育長	補正予算を計上するに至った理由を詳しく説明願う。
	教育総務課長	当初予定人数 228 人に対し決算見込み人数 240 人となり、12 名の増加があった。補助金の支給費目が学用品費、校外活動費、スキー用具借上げ料、修学旅行費等であり、1 人の増加につき複数の費目の支給が発生している。
	教育長	当初予算より不足するという事は羽生市において就学に困窮する世帯が増えているという事か。
	教育総務課長	就学援助費支給対象者の認定比率については、平成 25 年度が直近で対比できる数値であるが、国の認定率 15.67%、埼玉県の認定率 13.12%に対し羽生市は 10.9%と、国及び県よりは若干低い数字になっている。年度ごとの決算額は、平成 25 年度が小中学校合わせて 38,820 千円。平成 26 年度は 40,415 千円、平成 27 年度が見込額で 47,286 千円である。経済的に困窮している世帯が増えており、それに対する国の補助基準額も増えている。人数の増加に加え補助金の単価も上がっている。その結果今回の予算の増額に繋がっている。
	岩本委員長	<p>議案第 49 号については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>
	岩本委員長	議案第 49 号は可決された旨宣した。

会議事件名	て ん 末	
<p>議案第50号 議会の議決を経るべき議案について（平成26年度北埼玉地区視聴覚教育協議会歳入歳出決算の認定について）</p>	岩本委員長	議案第50号について、生涯学習部長に説明を求めた。
	生涯学習部長	北埼玉地区視聴覚教育協議会は平成26年度末をもって解散した。この度平成26年度の決算が整い羽生市監査委員の監査を受け、適正であると意見を頂いた。まず教育委員会の議決を求め、その後市議会に上程し、決算の認定について議決を受けるべく進めていく。
<p>議案第51号 羽生市有形文化財（仮称）「小松神社本殿（こまつじんじゃほんでん）」、無形民俗文化財（仮称）「本川侯のまわり地蔵（ほんかわまたのまわりじぞう）」の指定に係る文化財保護審議委員会への諮問について</p>	岩本委員長	議案第50号について質問・意見を求めた。
	岩本委員長	特になし
	岩本委員長	議案第50号については、よろしいか。
	岩本委員長	異議なしの声あり
	岩本委員長	議案第50号は可決された旨、宣した。 これより委員会を公開とする。
	岩本委員長	議案第51号について、生涯学習部長に説明を求めた。
	生涯学習部長	小松神社は戦国期の終わりごろ羽生領 72ヶ村の総鎮守となつたと言われており、1648年に忍城主阿部忠明が小松神社に社殿を奉納した際に建立されたものである可能性が高い。熊野神社と白山神社の2棟社殿があり、それぞれ造りが違い文化財的にも価値があると言われている。それを踏まえ有形文化財の指定をして後世に残し伝えていきたい。本川侯のまわり地蔵は、地蔵を背負い寺の檀家間を運ぶという風習であり熊谷市等各地に同様の風習が文化財指定されている。羽生市内のまわり地蔵についても無形文化財の指定を行い、永く保存し継承していくことが相応しいと考えるため、羽生市文化財保護審議委員会に諮問するものである。

会議事件名	て ん 末	
	岩本委員長	議案第51号について質問・意見を求めた。
	教育長	小松神社の本殿の文化財指定について宮司さんの了解は得ているのか。
	生涯学習部長	了解を頂いて進めている。
	教育長	まわり地蔵は地蔵様そのものを指定するのではなく、民族・風習としてその形態を文化財として指定する。
	岩本委員長	まわり地蔵は無形文化財という事だが、地域の方への告知などの配慮はどのようになるか。
	生涯学習部長	こちらについては、指定できる見込みとなってから、地域への説明を行う。
	教育長	この二つの文化財指定は性格の違うものである。まわり地蔵は伝統的に続いてきている行事で、その行事をより価値を高める為に指定を行う。川俣地区の人は大変喜んでくれると思われる。小松神社の場合は、あくまで信仰の対象になっている建物であるため、文化財指定されると対象物の維持管理の面で支障をきたすなどの問題が生じることがある。物の価値は変わらないが、管理者がやり難くなるという意味で了解を得る必要がある。私物ではないが、管理上の問題点も配慮が必要である。
	岩本委員長	議案第50号については、よろしいか。 異議なしの声あり
	岩本委員長	議案第50号は可決された旨、宣した。
	岩本委員長	次回教育委員会日程について事務局より説明の旨。

